

月報

<454号>

ケルンボン日本語
キリスト教会

二〇二二年四月三〇日

「死ねるから大丈夫! 死の先にある命の希望」

佐々木 良子

イースターおめでとございます。

燦々と輝く太陽、目に染み入る新緑と青空、美しい小鳥のさえずり等、命が漲る春が訪れました。

正にイースター日和とでもいえるようなお天気の中で、イエス様のご復活をお祝いすることができました。特に今年は会堂で、神の家族の皆様と顔を合わせ、心併せて賛美し、一同が神に礼拝をお捧げすることが叶い、イエス様のご復活の喜びと恵みが倍加したように思えます。

先日、日本のある牧師先生が執筆されている本を読んでいた時のことです。「永遠の命」に関しての項目の中で、『死ねるから、大丈夫!』というインパクトのある言葉に目に留まりました。一部をご紹介させて頂きます。

「・・・ある高齢の信徒の方があるとき牧師であるわたしにふと漏らしました。『死ねるから、大丈夫!』池の中にぼんと投げ込まれた石の波紋のようにしばらくわたしの心の中に残りそして考えさせられました。いまあるこの命を生きていることも楽ではないです。次々と襲ってくる試練があります。・・・『死ねるから、大丈夫!』やがて終わらせて頂けるのです。永遠の命とはこの命がいつまでも続くことではありません。・・・」

確かに、先生の本に記されているように、イエス様を信じている者は、死が終わりではなく、命

の始めであることを知っており、そこに希望を置いていきます。「死」は肯定的な意味さえ持つており、悲壮感漂うものではありません。

イースター直後に家庭集會が持たれました。集っておられる方々は、長い間、聖書に触れておられますが、クリスチャンではありません。そのようなメンバーの方々に「死ねるから、大丈夫!」のくだりをご紹介したところ、お一人の方が間髪入れずに、「それは究極の希望ねっ」と、発言なさいました。死後に希望を持つておられ、正に次の聖句のような境地とでも言えるのでしょうか。

「わたしたちの地上の住みかである幕屋が減びても、神によって建物が増えられていることを、わたしたちは知っています。人の手で造られたものではない天にある永遠の住みかです。わたしたちは、天から与えられる住みかを上に着たいと切に願って、この地上の幕屋にあって苦しみもたえています。」(コリントの信徒への手紙二 五章一二節)

この手紙を書いたパウロは、私たちは死をもって終わる人生を生きているのではないということとを、人間の地上の生涯を「幕屋」に譬えています。幕屋は所謂、テントですから、強い風が吹き荒れたら倒れ、長く使っていれば綻びます。私たちの生涯は、そのように脆く壊れやすいもので、いつかは過ぎ去り永遠なるものではないことを表しています。

私たちはこの体をもって生きることが、自分の弱さや罪深さ、苦しみや不安なこと等、様々な重荷を背負いながら生きています。しかし、様々なしがらみから解放される時がくるのです。そのようなテント生活を脱ぎ捨てる時が来るのです。

ここで注目したいのは、この先がなく、ただ苦しみ悶えているから、早く脱ぎ捨てたいということではありません。確かに苦しみの中にはありま

すが、その先の「希望を見ながらの苦しみ」であるということなのです。

その希望はどこから来るのでしょうか。やがて天から与えられる住みかを上に着る時が来るからです。「それを脱いでも、わたしたちは裸のままではおりません。」(三節)脱ぎ捨てただけではなく、罪と死から全ての苦しみから解放された究極の栄光の体を着せて頂けるといふ約束からくるものです。

その為には私たちは必ず「死」を通らなくてはなりません。しかし、「死ねるから、大丈夫!」なのです。そうして、「天から与えられる住みか」が与えられるのです。このように「天の住みか」を上に着たいと切に願いながらのテント住まいが、この世の私たちの歩みです。同時に死を越えた新しい命への道、「天の住みか」へと歩み始めているところです。



2022年4月17日 ポンハッファー教会
子どもと大人の合同イースター礼拝
(スカイプ同時配信)
プリュッセル教会の方々と一緒に!

へ一年間聖書通読を始めよう ― 今年の教会の目標 ―

★朝食後に新約、詩篇、旧約の順に音読をしています。アナウンサー?の練習の様にただただ字を追って声を出しています。一度は通して聖書を読みたいと思っていたので、佐々木先生からの通読案はとても良いきっかけになりました。内容が頭に残るかどうかは問題ですが。

★通読を初めてまだ三ヶ月、たまに忙しくて宿題が溜まってしまふことがあるが、意外と楽しくできています。今まで断片的に憶えていた箇所が繋がりと整理されてきたように思う。二年かけて通読ということをよく聞いていたので、佐々木牧師の提案に「一年で?！」と叫んでしまったが、旧約・詩篇・新約と分けて読み進めていくのが飽きずいいのかもしれない。

★年間通読表に、また、一人きりではない事にも励まされ何とか細々と続いています。「通読を目指し開いては、旧約の厚みに圧倒され閉じる創世記、一月が終わると創世記が終了!ひたすら読み続けに励まされ、今度こそ実現できそうな希望がもたらされました。」

★日々御言葉で一日を始められることを嬉しく思っています。ある時には、今までと違った鮮明さで御言葉が明らかに語ってくださることも体験して、私も変えさせられているのかな・・・と喜びさえ感じています。

特に通読の箇所の順序構成に感心しています。新約と旧約とが私の中でしっかりと繋がってきています。先ずマタイとヘブル書でヘブル的世界になじみ、旧約聖書で神の創造、アブラハムの神イサクの神ヤコブの神について知らされ、選ばれた民を通して信仰の旅を共にし、今生かされている自分との繋がりができました。そして今読んでいるマルコでは、聖霊のお働きを感じ取り、民数記では神様と共に歩むと言う事がどのようなことかを受け止める事が出来ているのでは。

川の傍に植えられた木のこゝろ(詩一・三)と願った私にとって今年私にこの通読が与えられたのは偶然とは思えません。コロナの渦中であるが故に自分の時間が与えられ、又教会の将来の歩みを祈る

土台が築かれていくのでは、とも願っています。視力が弱って、長い時間読むと聖書の字がぼやけてしまうので、一日に何回かに分けてでも、どうにかついていける事はとても嬉しい事です。我らに己が日を数えることを教えて、知恵の心を得させてください(詩九〇・一三)との希望をささげて。そして老いた羊をも引っ張って行ってくださっている先生に感謝して。

★通読を始めて三ヶ月余り、これで新旧約聖書を四分の一、読んだことになりました。自己流の読み方と比べて超超特急です。しょっちゅう借金返済をしなからですが、色々と新たな発見もあり感謝です。何とか最後までやり遂げられます様に!

★一月から聖書通読に参加しているのですが、旧約聖書は、掟、罪、罰が繰り返され、また詳細な数字が何度も書かれているため、読み終えると頭が石のように固くなるような気がします。いつ頃読んだのか覚えていませんが、捧げものと罪の許しという個所が印象に残りましたが、私の犯した罪は私自身が償うもので、捧げもので消えるはずはないと思いました。しかししばらくたって、新約聖書のイエスの死が、私たち人間の罪の許しのための捧げものだったのかな、と考えるようになりました。イースターを目前にして出会えた聖書の箇所、心から感謝します。

★これまで幾度も通読にチャレンジしていましたが、途中で挫折してしまい自分には無理だと諦めていました。今日も信仰の仲間が同じ箇所を読んでいると思うと励まされて何とか続けられています。理解に苦しむ箇所でも立ち止まりそうになりますが、佐々木先生が兎に角、読み続けることを目指してください、と仰ったことにも励まされています。まだ四カ月ですが、聖書の全ページを今年こそはめぐっていきたいと思っています。思いもよらないこのような機会を与えてくださった神様と先生に感謝しています。

★落ち穂拾い「畑から穀物を刈り取る時は、その畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない。貧しい者や寄留者のために残しておくべきだ。わたしはあなたたちの神、主である。」(レビ記二三・二二)

二〇二一年の暮れ、良子先生から聖書通読のお達しがあった。はじめは盛り上がり過ぎてイザ!!とスタートするものの長続きせず、「三日坊主」常連の私だが、不思議なことに本日現在(四月一〇日)何とか通読を続けている。この理由の一つは、良子先生の行き届いた御忠告「わからないときは飛ばせ」であり、早々にレビ記第一章(焼き尽くす献げ物)からしばらくは「飛び読み」(私の造語)せざるを得なかったが、読み続けるうちに嬉しくなったのが冒頭の御言葉であった。何と心温まる御言葉であろうか。読み続けてよかった。早速フランスの画家フランソワ・ミレーの代表作「落ち穂拾い」をスマホで見た。二つ目は、毎日、同じ箇所を読んでくださっている方からの励ましをいただいているのではないかと思う。通読二巡目は、レビ記の前半(献げ物)をじっくりと読もうと思う。

★聖書通読により、新旧約書の繋がりが以前より少しずつ分かって来ました。特に実感したのは、人間の計画と神様の計画は違っていて、誰一人その細部に目をつけてまで神様の計画を知る事ができません。実例をあげると、神様はアブラハムやノアの約束を、即ち人間にとって不可能な事を、遂行しました。でも、私達は永遠の命を与えられているから、神様に感謝しながら、救い主イエスに従い、身を清め、信仰の道をひたすらに進めて生きます。

役員紹介

藤井隼人

教会の会計担当は、途中何度か休ませて頂いた期間を除いて通算四〇年ぐらいいになります。国内外の多くの方々から捧げられた大切な献金を扱う訳ですから、大きな責任を感じながら神様の助けを頂いてこれまで歩んで参りました。

しかしながら歳を重ねて弱さも感じているこの頃、いつ取り返しのつかない失敗をしでかすか、と不安を抱えています。バトンタッチして下さる方が現れるようにと祈っているところです。その為にお祈り頂けると幸いです。

シュミット亜弥子

今年から外間久美子姉が役員の中に入って下さってとても嬉しく感謝です。私が役員になった時は私だけがマのを持ってなく、いつも私にはマ

で議事録が送られてきました。暫くして皆様に迷惑をかけていると思い私もPCを備えました。タイプ、ワープロもした事のない私でしたが、まずは一本指でメールの仕方などから始まりちよっとPCを使える様になりました。今は私が議事録係りをしていきます。書き上げるのにも時間がかかりますが役員をしなければ、まだPCを使ってなかったかもしれない私です。

外間久美子

新役員といえども、実は、三〇年ほど前に役員になった経験がある。その任期中に当教会は厳しい試練に遭い、それを通して先輩方の信仰に触れ、学ぶ事も多かった。しかし、その反面、仕事との両立はかなり辛く、二年後には役員を降ろさされていた。定年退職後は、時間的に余裕は少なかった。周りの、大病の予後のため無理はできなかった。周りに六・七年後に再発した方が多く、七年間は無理しないと決めていた。その七年が無事に終わり、やっとお引き受けする覚悟ができた。しかし、聖書の勉強も足りず、人前での祈りが苦手で、未だに信仰者として新米気分の抜けない私が役員になっていいのだろうか、不安になる。しかし、神様がきっと私を育ててくださると信じ祈るばかりである。やっと得た健康が保たれ、クリスチャンとして、教会役員として成長させられる一年であって欲しい。

へシュナイス先生を偲んで

藤井隼人



二月一日、元DOAM(ドイツ東アジアミッション)代表のパウエル・シュナイス牧師(八十八才)が天に召された。三月五日、ハイデルベルグの墓地内チャペルで行われた告別礼拝会を代表して夫婦で参列し、遺灰埋葬にも立ち会うことができたのは幸いであった。

清子夫人によれば、先生は昨年秋に入院されたが病状が思わしくなく、ご息の強い勧めで今年初め退院・自宅療養に入られた。「お陰様で、夫婦でゆっくりと落ち着いて、過去の色々なことを懐かしく思い出しつつ、話し合い、十分に

お別れの時を持つことができ感謝しています。」とのことであった。

シュナイス先生略歴

一九三三年三月に中国(長沙)で宣教師の息子として生まれ、一九五四年リーベンツェラー Missionseminar に入学、一九五八〜六二年まで宣教師として日本で働かれる。一九六三年帰国後バーデンの州教会で Pfarrdiakon として勤務。同年清子夫人と結婚。一九六七年ハイデルベルグで神学を学び始める。一九六六年より DOAM で勤務開始し、一九六八年 DOAM 代表就任。一九七〇年日本へ。一九七二年に設立された EMS (南西ドイツ福音ミッション) の最初の東アジア担当に就任。一九七五年日本基督教団のスタッフとして三度目の来日。

一九七〇年代以降、韓国 NOCS (全国教会協議会) の教会民主化運動は世界教会協議会の支援を受けており、その中でシュナイス先生は唯一の外国人として、主に独裁政権朴正熙の反対派に関する韓国のいくつかの法廷に出席して反対派を支援。そのため一九七七年に韓国政府から persona non grata とされ、国外退去処分。この処分は一九八八年の韓国軍事独裁政権終結後に解除され、先生ご夫妻は、戒厳令下極秘裏に行われていた、軍隊による学生・民衆虐殺の実態(光州事件、一九八〇年)を全世界に知らしめた功績により、二〇一一年『五月母賞』授与によって顕彰された。

シュナイス先生には、又田教会の牧師が出張の時など、何度か説教を担当して頂いたが、遠方から来て頂くので恐縮していると、「仕事ですから喜んで来ますよ」といつも仰っていた。牧師就任式礼拝には日本基督教団代表として祝福祈祷と挨拶をして下さったこともある。

必見資料：光州事件についての動画(日本語字幕付き)
(この動画では、シュナイス先生ご夫妻もインタビューを受けておられます)『名も残すことなく(第一部)「私たちが光州だった」[光州 MBC 5.18 光州事件 40 周年特集ドキュメンタリー(Jpn.)』(46:17)
https://www.youtube.com/watch?v=Y2_xmjAPLjU&t=39s

私には、いつもにこやかでもの静かな、ご自分を語らず優しい先生という印象しかないが、内に秘めた信念は強固で、文字通り「正義のためには、生命を賭して闘う」人であったことは、韓国光州事件でのご活躍を知られば知るほど良く分かる。生前、もっと色々なことを直接伺っておきたかったと、つくづく思う。
シュナイス先生、お疲れ様でした。どうぞその御許で安らかにお休み下さい。

感謝!! 聖書との再会

高野亜希子



私は三年前に主人の仕事の都合で当時一歳と三歳の子供を連れてケルンに来ました。当初の感想はというと、正直嬉しくはなかったです。ただでさえ主人は年の半分近くは出張で不在、育児の手助けは見込めない。全く言葉の分からない子供二人を連れて生活するなんて苦労しに来るとしか考えられなかったのです。私自身も金融業でもがきながら働き一〇年、ようやく安定してきたところで退職を余儀なくされ人生狂わされたとすら思いました。

沢々やって来た時は、楽しむことなんて想像すらしていませんでした。友達も出来なくて、とにかくかくなると子供を育て生活していく。そんな覚悟をしているときクラシックコンサートが開催されると聞き、行ってみたいなどと訪れたのがこの教会でした。そしてそれをきっかけに教会のことに会うことができました。

こうして、教会の方々、佐々木先生に出会い色々とお救われました。困っている時に救いの手を差し伸べてくれた教会員の方、子育て勉強会・読書会で育児の悩みにアドバイスをくれる仲間、聖書を共に読み進めながら熱心に説教してくださる佐々木先生。みなさんと出会い、徐々に思うようになったことは「先生や教会の方々の明るさや優しさ、ポジ

ティヴさはどこから来るのだろう。」という疑問でした。

少し話が飛び聖書の話になります。幼少期の私は本を読むのが大好きで学校の図書館である日見つけたのが子供のための旧約聖書でした。読んだ時の衝撃は大きく、旧約聖書に深い興味を持ち父に頼み「創世記」や「十戒」のビデオテープを買ってもらい見ていたのを今でも覚えています。特にその後キリスト教と関わるきっかけはありませんでした。が当時のことを先生にお話したところ、聖書を一緒に読み進め勉強させていたことになりました。

聖書を読んでいると私の中で一瞬ギョツとすることがあるのは否めません。これ、どういう意味だろう？そんなことを佐々木先生に質問しながら答えを聞いて、「なるほど、こんな考え方もあるんだなあ。」と理解していけることがとても楽しいです。

まだ教えの中のほんの一握りしか理解していません。それでも自分が今どうしてこの道を行っているのかと考えた時、この道が間違っているなんて思うことはなくなりました。例えば、上手いかないことがあったときに「私じゃないもつとできる人が母親だったら」と人と比べてしまつたこともありません。海外生活で辛いことがあったときに「もし私がドイツに来なければ」と思つたこともありません。しかし徐々に考え方が変わり今は「たれば」を考へることなく道を歩んでいく気がします。仮にその道に「嫌なこと」が起こつてもきっとそれは神の与えた何か意味のあることであり「嫌なこと」を嫌だと思わなくなりました。先に話した教会のみなさんのポジティブ思考、それは神を信じる心からだと感じました。そしてまだまだこれから「教えを学びたい。」そんな風に思っています。

また、三年前の私の人生狂わされたなんてネガティブで何かを憎むような考え方も聖書を読んでいくと馬鹿らしくなります。それほど私自身もポジティブさを与えられたような気持ちで、気が付けばこの三年間で得られたものの方が大きいのです。この度、本帰国が決まりドイツでの生活も残り少なくなり、離れるのが寂しいくらい今はこの生活を楽しんでいます。

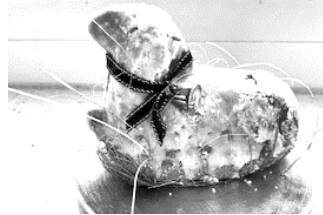
そして、最初はぶつかってばかりでしたが私がここに来てこんなに素晴らしい経験をできるきっかけ

けとなった主人に今は感謝、そこに導いてくださった方々に感謝、神に感謝、とにかく全てのことに感謝の気持ちでいっぱいです！

◆ 子どもと大人の合同イースター礼拝 ◆

四月一七日 ボンヘッファー教会にて (スカイプ同時配信)

五カ月振りに対面での礼拝をお捧げすることができました。ブリュッセル教会の方々もお子さんを含めて九名の方々がおいでになりました。礼拝後、玉子探しをしてからお交わりの時をもつことができました。嬉しいな時となりました。



皆様の愛が籠ったイースターエッグ、羊のケーキ、おにぎり、チョコレート、クッキー等、会堂の外で楽しく美味しく頂きました。

◇ 報告 ◇

◇ 休会していた子どもの礼拝を一月からスカイプにて再開しました。(月に一回・第三日曜日)
 ◇ 一月三〇日 教会定期総会を開き、今年の教会目標として、「一年間聖書通読」、隔月ごとに懇談会を開催することを決定しました。

◇ 二月一〇日、パウル・シュナイス先生が召され、三月五日の葬儀に藤井準人兄・弘子姉が出席しました。

◇ 第一回目・懇談会を三月一三日(日)礼拝後、スカイプにて行いました。

◇ 三月二〇日(日)ブリュッセル教会員の方によるピアノとヴァイオリンによる「戦禍を覚えての特別賛美礼拝」をお捧げしました。

◇ ウクライナ避難民のために寄付を募り、集まった六八五ユーロをDakonieに献金しました。

◇ 編集後記 ◇

久しぶりに会堂で、子どもと大人の合同の幸いなイースター礼拝をお捧げすることができました。教会に集った方々のお顔を見ながらお話しができて、一緒に声高らかに賛美ができること、そして、そこに可愛い子どもたちが存在すること、何と眩い光景でしょうか。昨年とは違って、何と眩い光景でしたので、今年のイースターの幸いを思ったら胸がいっぱいになりました。

(佐々木良子)

◇ 予定 ◇

ヨーロッパキリスト者の集い

8月4日～7日(日)

会場: Christliches Gästezentrum
Württemberg, Schwäbisch Gmünd

テーマ: キリストにある自由

～諸集会について～

礼拝 第1・3・5日曜日 14時～

(スカイプ)

第2・4日曜日 教会にて(スカイプ同時配信)

子どもの礼拝(スカイプ)

第3日曜日 13時30分～50分

聖書の学び会(スカイプのみ)

毎水曜日 10時

ママの子育ての学び会読書会

変動的ですので、牧師までお問い合わせ下さい。随時、HPでご確認ください。

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln-Bonn e.V.

<主日公同礼拝>

会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche

住所: An der Decksteiner Mühle 1

50935 Köln (Lindenthal), Germany

電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)

時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00

<牧師> 佐々木良子 (Pfr. Ryoko SASAKI)

牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln

固定電話: 02234-9298792

携帯電話: 0151-2910 6278

Email: r310130s@yahoo.co.jp

<ホームページ>

http://koelnbonn.jp

<振込口座>

IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38

BIC: PBNKDEFF